

技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例①

令和3年度 調査結果

外国人技能実習機構

東京都 R 監理団体

【監理団体概要】

実習生の国籍：ベトナム、中国、ミャンマー、インドネシア、フィリピン、カンボジア
実習生の職種：そう菜製造業、ビルクリーニング、自動車整備、建設関係、牛豚食肉加工、介護

【ポイント】 ✓気軽に日本語を学習できるアプリを開発
✓監理団体がアプリを通して日本語学習の進行状況を把握し、フォローを図る

アプリ開発会社と共同で、日本語学習アプリを開発

監理団体はアプリ開発会社と共同で、2019年に技能実習生用の日本語学習アプリを開発した。写真①②

アプリの言語は、ベトナム語、中国語、ミャンマー語、カンボジア語、英語に対応している。内容は主に日本語能力試験（N4～N2）向けの練習であり、さらに自動車整備の専門用語が学べる「整備アプリ」、介護の専門用語が学べる「介護アプリ」も開発している。

アプリでは、絵入りの単語や文章が書かれたフラッシュカードを1枚ずつ表示させて、音声を再生したり、自分の発音を録音して日本人の発音と比較したりでき、最後にトライアルテストも受けることができる。

監理団体はこのアプリを通して各実習生の日本語学習の進行状況を把握し、実習実施者に対して月1回情報提供している。

実習生からの声

アプリを使用した実習生からは、スマホを使って勉強できるので時間や場所を問わず学習できる点や、時間つぶしのゲーム感覚で気軽に使える点が好評を得ている。

監理団体は、今後も実習生のニーズに添って改良していきたいと考えている。

写真①



- ① 繰り返し機能オン・オフ
- ② 音声の大きさ調整
- ③ 再生ボタン
- ④ 音声のスピード調整

写真②



文法解説動画(ベトナム語)

技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例②

令和3年度 調査結果

外国人技能実習機構

石川県 I 監理団体

【監理団体概要】

実習生の国籍：インドネシア

実習生の職種：漁船漁業

- 【ポイント】 ✓屋内でできる活動として自作のカレンダーを作成し、母国の家族に送る
- ✓バンドを結成し社会福祉施設などを訪問、コロナ禍では代わりに字幕入りのDVDを作成し配付

実習生が描いた故郷の絵でカレンダーを作成し、母国の家族に送る

これまで実習生は課外活動として、地域のスポーツ大会や祭りなどのイベントに参加していたが、コロナ禍の影響で屋外活動ができなくなった。そこで、監理団体と付き合いのあるNPO法人が、屋内でできる自作のカレンダー作りを提案した。

実習生が描いた故郷の絵や、母国語で書いた「簡単に諦めるな、学び続けろ」などといったモットーを、NPO法人がコンピュータに取り込んで編集し、カレンダーのデータを作成した。データは各実習生から本国で待つ家族に送付された。

また、投票で選ばれた優秀作品は、コロナ禍において食料支援をしてくれた在日本インドネシア大使館にも寄贈された。写真①②

写真①



写真②



写真付きのカレンダー

バンドを結成し、社会福祉施設などで演奏

漁業の実習生たちによりバンドが結成され、高齢者福祉施設などを訪問して演奏活動を行っている（2020年2月上旬まで）。この活動は、実習生と地域住民との交流の機会となるだけでなく、実習生自身の心の安定や健康維持などの効果が期待できる。一旦漁に出ると、船内生活における人間関係が気持ち不安定になりがちだが、歌やダンスをすることで気分転換になる。また、船内では昼夜逆転の生活になるが、課外活動により生活リズムを整えることで、健康維持の効果も期待される。

2020年2月中旬以降、新型コロナウイルス感染症の拡大により訪問演奏は中止となったが、代わりにNPO法人が演奏や踊りの字幕付きDVDを作成し、希望する施設などに配付することとした。また、DVDを帰国時のお土産として持たせたところ、実習生たちに喜ばれた。写真③

写真③



演奏風景

技能実習期間中の課外活動に関する取組好事例③

令和3年度 調査結果

外国人技能実習機構

高知県 K 監理団体

【監理団体概要】

実習生の国籍：ベトナム、カンボジア

実習生の職種：耕種農業、畜産農業

【ポイント】 ✓ボランティア活動を通して地域住民の理解を得た
✓中小企業団体中央会主催の日本語教室を活用、希望する実習生には漢字教室を開催

地域のボランティア活動に参加し、地域住民の理解を得た

実習生たちは課外活動の一環としてサッカーチームを結成し、普段は公園のコートで練習をしているが、ある時監理団体に、隣のゲートボール場を利用している地元高齢者から、「見慣れない人たちがいて怖い」という声が寄せられた。実習生たちは監理団体からの提案を受け、その高齢者の方々がボランティアで行っている公園の芝刈りを手伝うことにした。その結果互いにコミュニケーションが取られるようになり、地元高齢者の不安も解消された。

監理団体ではこのほか、入国後の研修の際に、実習生に公園の清掃などの地域ボランティア活動に参加してもらっている。高齢者が多い地域では、自宅まで行って粗大ゴミを運び出す作業を手伝うなど地域住民の手助けをしている。

日本語教室を開催、希望者には漢字教室も

監理団体では、高知県中小企業団体中央会の制度を利用し、講師派遣を受けて日本語教室を開催している。2021年には合計18名の実習生が参加し、週末2時間ほどのテキストを使用した授業が全10回開催された。写真①

中央会の日本語教室は初級レベルの内容であるが、さらに上級レベルの内容を希望する実習生に対しては、監理団体が自ら漢字教室を開催している。監理団体の連絡網等を通じて希望者を募り、一定の人数が集まった際には、実習実施者の繁忙期を避けて実施している。

監理団体主催で県内旅行を実施

コロナ禍の影響でイベントなどが制限されたことを受け、監理団体は県内での旅行を実施した。旅行は2回に分けられ、実習生全員が参加できるように配慮された。県内の名所などを回り、旅館に宿泊する旅程が生まれ、実習生にとって楽しい思い出になったほか、実習生どうしが仲良くなれる機会にもなった。写真②

写真①



使用しているテキスト

写真②



浴衣姿の実習生